

## 連載 発注者からみた官公庁情報システムの現状と課題 第 21 回 官公庁と DX(4)制度等簡素化の試案

神奈川県庁 岩崎 和隆

### 1 はじめに

官公庁の DX では、国民、住民の UX (ユーザエクスペリエンス) の改善とともに、制度及び業務 (以下「制度等」と言います。) 簡素化による行政コストの削減が必要と考えます。本稿では、制度等簡素化の試案を記します。

### 2 用語の定義

#### (1) 狭義の情報システム

私の他のメルマガ連載記事では、一般的な用法に従って、コンピュータシステムを情報システムと記載していますが、本稿では、これを狭義の情報システムと定義します。

#### (2) 広義の情報システム

広義の情報システムを、生物の情報行動を支援、拡張するものと定義<sup>\*1</sup>します。広義の情報システムにおいて狭義の情報システムは構成要素として必須ではありません。なお、本稿では、官公庁の DX がテーマなので、生物の情報行動を人間の情報行動と言い換えることができます。

### 3 制度等簡素化の必要性

わが国の国際競争力が 34 位まで低下している状況において、複雑な制度等のうち国際競争力の向上に寄与せず、かつ、国民、住民の幸福に寄与しないものは、簡素化が必要と考えられます。

### 4 制度等簡素化の範囲

国際競争力の向上に寄与する制度等は、制度等の効果とコストを衡量して見直しの対象とするか否かを決めます。その際、制度等の代替案の効果及びコストとの比較検討が必要です。

国民、住民の幸福に係る制度等については、一切見直さないということではなく、国際競争力向上に寄与する制度等と同様、制度等の代替案の効果及びコストとの比較検討が必要と考えます。

### 5 ベンチマークによる見直し

地方公共団体の場合、同規模の他の団体の制度等の情報を収集し、自らの団体の制度等の複雑さが、同規模の団体中 X 番目であったら、X/2 番目の団体と同程度の複雑さに見直

します。X/3 番目を目標にしてもよいかもしれません。

## 6 IT の視点による制度等の見直し

金崎先生<sup>\*2</sup>は、法案に対する事前システム審査の実施を主張されています。私は、既存の制度等の見直しにおいてこの主張を応用できると考えております。具体的には、広義の情報システムの視点でコスト及び品質を考慮し、制度等を簡素化ないし広義の情報システムに適合した代替の制度等に置き換えます。

また、狭義の情報システムを利用する場合、パッケージソフトウェアを導入するときは、コスト削減及び業務品質確保のために、制度等をパッケージソフトウェアに合わせるべきと言われています。そうであるなら、スクラッチソフトウェアを利用する場合であっても、狭義の情報システムの開発、運用及び保守を簡素にできるよう、制度等を設計し直すことがコスト削減及び業務品質確保に寄与すると考えられます。

経験上、制度等を狭義の情報システムを用いないで手作業により実施するとき簡素にできるよう見直せば、狭義の情報システムを用いるときでも開発、運用及び保守が簡素になることが多いのですが、狭義の情報システムでは、大量画一遠隔地処理が得意で個別処理が苦手などの特性があります。狭義の情報システムを利用するときは、その特性を考慮することが必要です。

## 7 コスト及び品質を考慮した広義の情報システム改善計画の作成

以上の見直しを実施したときに期待できるコスト削減及び業務品質向上効果と、見直しに要する費用を衡量して、狭義の情報システムであるコンピュータシステムの開発や再開発の機会に実施するものと、開発や再開発を待たずに実施するものを決めます。

## 8 人類の歴史から学ぶ—広義と狭義の情報システムに制度等を合わせること

広義、狭義の情報システムともに、人間の道具という一面があります。道具に合わせた制度等の方が集団として有利ということは、DX 時代特有のことでなく、人類が道具を使い始めたときから変わっていません。我が国は品質管理という道具を知らずに戦争に敗れ、その道具を有効活用して経済成長を成し遂げました。そして今、広義と狭義の情報システムの有効活用で他国に遅れをとっているように見えます。

## 9 まとめ

制度等の簡素化では、制度等が国際競争力や国民、住民の幸福に寄与しているときは、代替案の効果及びコストとの比較が必要です。また、地方公共団体の場合は自らの団体よりも制度等が簡素な団体をベンチマークにすることができます。

広義の情報システムの視点で既存の制度等の簡素化や代替の制度等を検討することも有

用と考えます。狭義の情報システムを利用する場合、パッケージソフトウェアのときは制度等をパッケージソフトウェアに合わせる、スクラッチソフトウェアのときは狭義の情報システムの開発、運用及び保守を簡素にできるよう、制度等を設計し直すことがよいと考えます。

期待できるコスト削減及び業務品質向上効果により、狭義の情報システムの開発や再開発の機会に見直すものと、開発や再開発を待たずに見直すものに分けます。

## 10 おわりに

本稿の内容は、神奈川県の見解でなく、私の知見と記憶に基づくものです。

本稿へのご助言、ご異論、ご感想、ご質問や、今後取り上げるテーマのご要望をくだされば、大変幸いです。特に、ご異論やご助言は、私の考えをブラッシュアップしてくださる、貴重なものです。心より、お待ち申し上げます。

※ 1) 一般社団法人情報システム学会 新情報システム学体系調査研究委員会編, “新情報システム学序説”, 2014.

※ 2) 金崎健太郎, “情報システム調達の政策学”, 関西学院大学出版会, 2020.